

効果的な「振り返る」学習活動に向けて

利根沼田管内では、確かな学力をはぐくむために、「振り返る」学習活動を取り入れた授業が増えています。その一方で、「振り返る」学習活動をさらに効果的にするには、どうすればよいかという声も聞かれます。そこで今回は、「振り返る」学習活動を充実させるポイントを紹介しします。



(5年班)

「振り返る」学習活動が重視されている背景などを教えていただきたいのですが。

『小学校学習指導要領解説 総則編』には、「見通しを立てたり、振り返ったりする学習活動の重視」について、次のように書かれています。(文中の…は省略部分)

今回の改訂では、…児童の学習意欲の向上を重視している。…児童が学習の見通しを立てたり学習したことを振り返ったりする活動を計画的に取り入れ、自主的に学ぶ態度をはぐくむことは、学習意欲の向上に資する…。…これらの指導を通じ、児童の学習意欲が向上するとともに、…学習内容の確実な定着が図られ、…と考えられる。

つまり、「学習意欲の向上」や「学習内容の確実な定着」につながるよう、「振り返る」学習活動を取り入れることが重要なポイントとなります。具体的に確認をしてみましょう。

*『小学校学習指導要領解説：総則編』P58・59 から抜粋、『中学校Ⅱ』は P61・62 参照

(学社
コーディネーター)

ポイント：評価項目を意識し、子どもが何を学んだのかを実感できる「振り返る」学習活動を行い、学習内容の確実な定着が図れるようにする

算数の授業（5年「簡単な比例」）で、ほとんどの子どもが、「今日は比例がよくわかりました。」と振り返っていました。自分としては満足しているのですが…。

この時間に学んだ比例の内容については、具体的にどんなことを振り返っていましたか？

内容について振り返っていた子どもは、ほとんどいませんでした。

評価項目は、「一方が2倍、3倍になれば、もう一方も2倍、3倍になるなどの変わり方の特徴を見いだしている。」ですから、これに沿った振り返りができると学習内容の確実な定着につながりますね。何を学んだのかを子どもが実感できることが大切です。

表面的な振り返りで満足してはいけないですね。



ポイント：子ども主体の学習過程に「振り返る」学習活動を取り入れ、学習意欲の向上が図れるようにする

算数でのアドバイスをもとに、理科の時間（「電流の働き」）に振り返らせました。「乾電池の数や導線の巻き数を多くすると、電磁石の働きが大きくなる。」という学習内容の振り返りに加えて、「予想が正しいかを、自分が考えた方法で確認できてうれしかった。」「導線を太くしたら、電磁石の働きは大きくなるか調べてみたいと思った。」などと振り返っていた子どももいました。

素晴らしいですね。学習意欲にかかわる振り返りも出てきたんですね。どんな授業だったのですか？

自分の予想に基づいて、子どもがいろいろ試せるような活動を取り入れました。

子どもが見通しをもって主体的に追究し、振り返るような学習を行ったからこそ学習意欲の向上につながる振り返りもできたんですね。教師が振り返りの方法だけをどんなに工夫しても、子どもが主体的に学習しなければ、このような振り返りは難しいですね。



「学習意欲の向上」と「学習内容の確実な定着」を意識して授業を行い、「振り返る」学習活動を充実させたいと思います。見通しをもたせることの大切さもわかりました。

